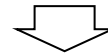
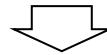
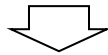


国語の全体概要

国語全体の正答率は、全ての観点において、県平均を上回る結果が得られました。特に、「知識・理解・技能」の観点では、県平均を大きく上回る結果が得られました。

国語の調査結果について

話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
<p>司会の役割を考えながら話し合いを進めることや自分の考えと比較しながら聞くことを問う選択式の設問で高い正答率を得ました。また、活用に関しては、理由を明確にして話す内容を構成する記述式の問題でも高い正答率でした。</p>	<p>目的に応じて内容の中心を明確にして書いたり、書くために必要な事柄を調べるための計画を立てたりする選択式の設問で、高い正答率を得られました。目的に応じて、理由を挙げて自分の考えを書く文章記述の活用に関する問題や「一文にまとめる」など条件に合わせて書く問題での正答率がやや下回りました。</p>	<p>登場人物の気持ちを捉えたり、移り変わりを捉えたりすることを問う選択式の問題では高い正答率を得ることができました。また、活用に関しては、資料から情報を読み取り、文章の内容を踏まえ、引用や要約をしながら記述する問題で、正答率が県平均をやや下回りました。</p>	<p>漢字を正しく読むこと、書くことが求められた設問では高い正答率でした。一方、ローマ字での読み書きを問う問題での正答率は、県平均を下回りました。また、文中における主語を捉える問題においては、県平均程度であったもののやや理解不足の状況が見られました。</p>



今後の対応

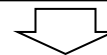
- この結果を踏まえて、夏季休業中の学習会、毎週火曜日の朝の時間に特設のスキル学習「国語タイム」や「三里タイム」を行い、理解が不十分であった内容の補充学習指導や授業づくりの工夫を行います。
- 「読むこと」の向上のために、記述内容を読み取る力をつけます。資料から情報を読み取り、要約することや引用することなどを重点的に指導します。国語科以外の教科でも資料から情報を読み取る活動を取り入れます。また、授業以外においては、学校図書館を活用した多読賞の奨励や推薦読書の啓発などの読書活動を推進し、語彙指導の充実を図ります。
- 「言語事項」においては、更に正しく漢字の読み書きができるように、家庭での宿題の確実な取組みを指導していきます。また、理解不足が見られたローマ字の学習を復習し定着させます。

算数の全体概要

算数全体の正答率は県平均を上回る結果が得られました。評価の観点別では、「考え方」「知識・理解」の正答率で県平均を上回り、「技能」の正答率は、県平均と同程度でした。

算数の調査結果について

数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
<p>活用に関する記述式の問題では、示された条件や情報をもとに考察し、その理由を説明することができました。反面、伴って変わる二つの数量をとらえ、○や□を用いて式に表すことには、理解の不足が確認できました。</p>	<p>面積を求める計算、分度器を用いて角の大きさを求める短答式の問題では、高い正答率を得ることができました。反面、四則が混合していて、計算の工夫がある式の計算や直線の位置関係に着目し、垂直な二つの直線を見つける問題では誤答が見られました。</p>	<p>立方体の展開図や複合図形の面積を考える問題では高い正答率でした。反面、結合法則や、面積の感覚について理解しているかを問う問題では理解不足が確認できました。</p>



今後の対応

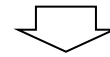
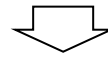
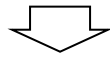
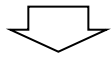
- この結果を踏まえて、夏季休業中の学習会、毎週木曜日の朝の時間に特設のスキル学習「算数タイム」を行い、理解が不十分であった内容の補充学習指導や授業づくりの工夫を行います。
- 授業においては、面積など数量の量感を身に付けさせ、日常生活と結びつける授業を仕組みます。また、数量関係領域で課題が見られた児童には、内容を反復させ、基礎をしっかりと仕上げていくことで、基本と応用の両面に対応できる力を育てていきます。
- 理解不足が見られた領域については、下学年の内容から復習し、基礎・基本の定着を図ります。
- 自分の考えに自信を持って書き込み、考えの足跡を残すようなノート指導を行い、論理的思考力を育てます。
- 家庭学習では、授業の復習や思考力・表現力を育てるような宿題や自主学習を出します。

国語の全体概要

国語全体の正答率は国、県の平均を上回りました。観点別でも「読む」と「書く」また「知識・理解・技能」に高い正答率が得られました。

国語の調査結果について

話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
相手や目的に応じ、筋道を立てて話すことや計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることを問う、選択式の問題で高い正答率でした。反面、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる記述式の問題では、県平均を下回りました。	目的や意図に応じて文章全体の構成を考える問題や推薦するためには、他のものと比較することで、よさが伝わることを捉える問題で高い正答率が得られました。反面、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べ考えをまとめる記述式の問題では、県平均を下回りました。	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む設問で高い正答率を得られました。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む記述式の問題でも高い正答率が得られました。	漢字を正しく読んだり、書いたりすること、慣用句、敬語の意味を理解して、日常生活に用いる選択式の問題では高い正答率でした。反面、文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く設問が県平均を下回りました。



今後の対応

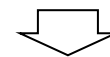
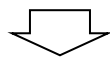
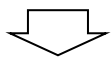
- この結果を踏まえて、夏季休業中の学習会、毎週火曜日の朝の時間に特設のスキル学習「国語タイム」や「三里タイム」を行い、理解が不十分であった内容の補充学習指導や授業づくりの工夫を行います。
- 主語と述語の関係や言葉のきまりを意識しながら文章を書くことができるよう意図的に授業を仕組んだり、宿題に日記を出したりしながら「語句に関する知識」を高めます。
- 友達の考えをとらえ自分なりに解釈して言い換えることや自分の考えの相違を考えることなど主体的で対話的な学びにつながるよう授業を工夫・改善します。
- 授業以外においては、学校図書館を活用した多読賞の奨励や推薦読書の啓発などの読書活動を推進し、語彙指導の充実を図ります。

算数の全体概要

算数全体の正答率は国、県の平均をやや下回りました。また、各観点別での正答率での県平均比較では、「技能」と「知識・理解」でほぼ同等でしたが、「考え方」について、下回る結果でした。

算数の調査結果について

数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
示された考え方を解釈し、条件に合う時間を判断する記述式の問題で活用に関する問題で高い正答率でした。反面、メモの情報とグラフを関連づけ総数や変化に着目していることを解釈し記述する問題では正答率の低さが確認できました。	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ったり、角の大きさを正しく求めたりする選択式の問題で高い正答率を得ることができました。反面、空間の位置を表現したり、百分率を求めたりする選択式の問題で県平均の正答率を下回りました。	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味や円の直径の長さや円周の長さの関係について理解しているかを問う選択式の問題では高い正答率でした。反面、数の大小比較や円周率の意味について問う選択式問題では県平均正答率をやや下回りました。



今後の対応

- この結果を踏まえて、夏季休業中の学習会、毎週木曜日の朝の時間に特設のスキル学習「算数タイム」を行い、理解が不十分であった内容の補充学習指導や授業づくりの工夫を行います。
- 課題が見られた単元については、理解不足な部分と合わせて補充指導を実施し、基礎的な知識の習得を目指します。また、思考力を高める学習指導を行います。
- 授業のなかで、自分の考えをノートに書きながらまとめる思考力・表現力を高める授業を仕組みます。また、理解したことの定着を図る時間を確保し、確実に学習したことが定着するように取り組みます。
- グラフなどの情報処理について、多様な気づきを発表させ、考察する活動を仕組み、主体的な学びの充実を図ります。
- 家庭学習では、授業の復習や思考力・表現力を育てるような宿題や自主学習を出します。

理科の全体概要

理科全体の正答率は国、県の平均を下回りました。また、各観点別での正答率での県平均比較では、「知識・理解」は身につけていると考えられるものの「技能」と「思考・表現」について、下回る結果でした。

理科の調査結果について

科学的な思考・表現

海水と水道水を区別する問題や堆積作用について複数の情報を関係づけて分析する問題で、県平均を上回りました。反面、堆積作用や電流の流れ方で予想した結果が正答とした場合の実験結果を選択する問題や堆積作用により妥当な考えを作り出すために実験結果を基に分析し記述する問題では、県平均を下回りました。

観察・実験の技能

実験の適切な操作方法を身に付けているかを問うため、一旦ろ過した海水の溶液を、更にろ過する装置やろうと、ろ紙、ガラス棒の器具を用いて、正しく実験している図を選択する問題で、県平均を下回りました。

自然事象についての知識・理解

腕を曲げることのできる骨と骨とのつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している短答式の問題や堆積作用について科学的な言葉や概念を理解していることを問う選択式の問題では、県平均とほぼ同じでした。

今後の対応

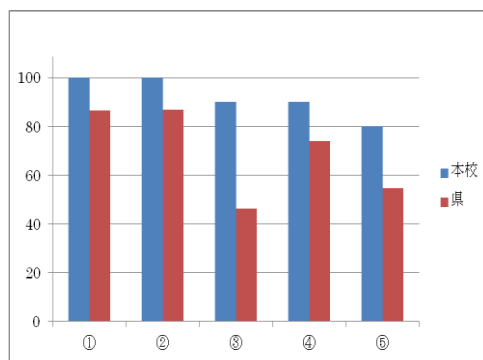
- この結果を踏まえて、理解が不十分であった内容の補充学習指導や授業づくりの工夫を行います。
- 観察や実験に用いる器具やその使用方法などを繰り返し指導し、観察・実験の技能を身につけるようにします。
- 正答率が低かった領域については、授業をとおして補充的な学習指導も行います。
- 全般に、活用に関する記述式の問題の正答率が低い傾向であるため、国語科の学習と関連させながら、記述する力を伸ばす学習指導を行います。
- 児童自らが学習問題を考え、習得した知識・技能を活用しながら解決に向かう授業を仕組み、思考力・表現力・判断力を育みます。

生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

5年生

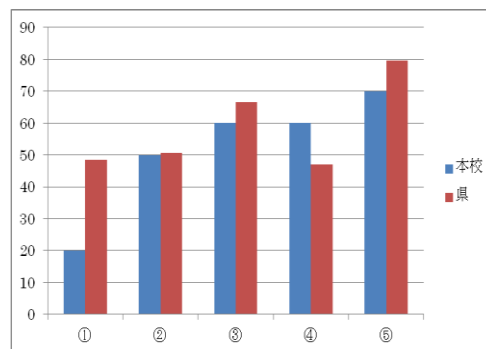
【数値が特に高かった項目】

	調査の項目
①	友達と会うのは、楽しいと思う。
②	学校の宿題をしている。
③	学校では、落ち着いて勉強することができると思う。
④	人の役に立つ人間になりたいと思う。
⑤	授業の中で目標（めあて、ねらい）が示されていると思う。



【数値が特に低かった項目】

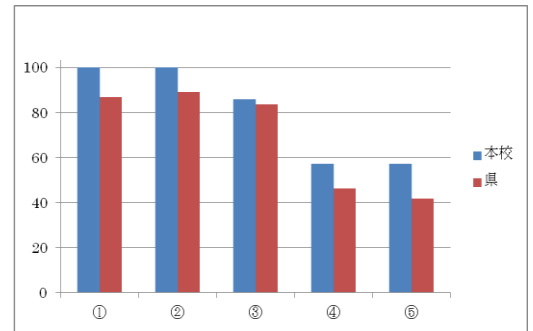
	調査の項目
①	学校の授業の予習をしている。
②	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている。
③	自分で計画を立てて勉強している。
④	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。
⑤	テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。



6年生

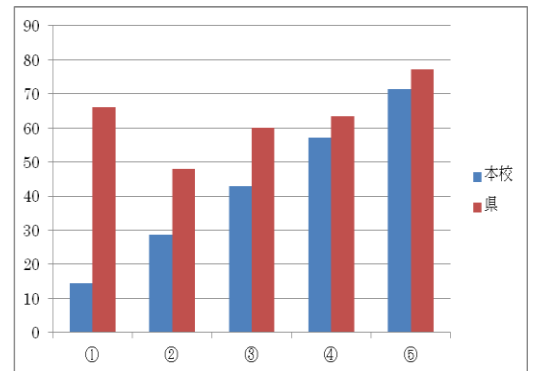
【数値が特に高かった項目】

	調査の項目
①	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
②	学校の宿題をしている。
③	朝食を毎日食べている。
④	今住んでいる地域の行事に参加している。
⑤	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



【数値が特に低かった項目】

	調査の項目
①	地域や社会などで、ボランティアに参加したことがある。
②	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。
③	学校の授業の予習・復習をしている。
④	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
⑤	家の人と学校での出来事について話をしている。



〈学習習慣について〉

・ 「学校の宿題をしている」については、どちらの学年も県平均を大きく上回っています。反面、「学校の授業の予習・復習をしている」については、どちらの学年も県平均を下回りました。また、五年生の「自分で計画を立てて勉強している」についても、県平均を下回りました。このことを踏まえ、今後、授業の予習、復習の内容になる自主学習を行ったり、自分で内容を考え計画を立てて勉強したりすることができるよう指導していきます。宿題は、基礎的な内容を着実に習得するための学習課題と捉え、学力向上のためには各家庭での取組の必要性について保護者への説明と協力について重ねて依頼します。

・ 家庭学習の定着と基本的な学習習慣の確立のために、それぞれ、家庭と児童に配布する「家庭学習の十か条」との活用を継続して行います。

〈生活習慣について〉

・ 六年生の「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」については、県平均を大きく上回りました。今後も、よりよい生活習慣を身につけるために「家庭教育指針振り返り表」による生活習慣の改善に向けた取り組みを家庭と連携して行います。また「学校のきまり」や「生活目標」の指導を推進していきます。

〈自分を見つめる心について〉

・ 「人の役に立つ人間になりたい」や「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という意識は、県平均を大きく上回っています。また、六年生では、「今住んでいる地域の行事に参加している」について、高い数値を示しています。反面、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「地域や社会などで、ボランティアに参加したことがある」については、低い結果でした。今後は、学校外でのボランティアや地域・社会に目を向けることができるよう、道徳教育や総合的な学習の時間を活用し、児童が相互に活動発表できる場を設けていきます。

・ 今後も自分の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びが実感できるよう、委員会活動や学校行事での活動を通して自己肯定感や自尊感情を高めていきます。さらに今後は、全教育活動とともに、道徳教育を推進します。